

**「未来構想 水道ビジョン野田（経営戦略）」（素案）
に対する意見募集の結果について**

パブリック・コメント手続によって寄せられた意見と市の考え方は、次のとおりです。

1 政策等の題名

「未来構想 水道ビジョン 野田（経営戦略）」（素案）

2 意見の募集期間

令和元年6月14日（金曜日）から令和元年7月17日（水曜日）まで

3 意見の募集結果

①提出者数・意見数	2人	9件
②提出方法	直接持参	0人 0件
	郵送	1人 7件
	FAX	0人 0件
	Eメール	1人 2件
③政策等に反映した意見		4件

4 意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方	案の修正
全体			
○整備計画に対する意見			
	<p>平成25年3月に厚生労働省が策定・公表した新水道ビジョンでは、50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像は「安全、強靱、持続」とし、その具現化に向けて取り組むべき事項、方策等が示されています。</p> <p>しかし、今回の水道ビジョン野田は、今後とも上花輪浄水場を配水場として使用する計画です。</p> <p>上花輪浄水場の地形は、活用以前湿地であり、埋め立て造成して水道施設が整備され54年経過しています。</p> <p>又、上花輪浄水場は平成20年度に実施した簡易耐震診断にお</p>	<p>1について</p> <p>江戸川の水利権 0.137 m³/秒の今後の運用については、表流水の取水及び浄水に伴う施設の休止又は廃止計画に基づき、これまでも北千葉広域水道企業団と協議を進めてまいりましたが、水利権を貸与して浄水処理をすることは、極めて困難であるとの結論となっております。</p> <p>具体的には、現在の北千葉広域水道企業団の浄水処理能力は525,000 m³/日であり、この能力は令和6年度完成予定の思川開発も含めた浄水処理能力となっております。</p>	修正無し

No.	意見の概要	市の考え方	案の修正
	<p>いて非耐震と判定されています。</p> <p>上花輪浄水場の沈殿池・濾過池・配水池・ポンプ井のコンクリート部分は耐用年数前後と思いますが、ポンプ設備・制御盤等の耐用年数は過ぎかなり老朽化していると思われます。低地に設置してあるため配水経費も高く、且つ水没の危険性もあります。</p> <p>野田市の計画では上花輪浄水場は、今後配水場としての機能を存続させるため、配水設備の整備を進める必要がありますとなっておりますが、地上部分の機械設備等は問題点を目視で確認できませんが、地下に設置してあるコンクリート製構造物（配水池・ポンプ井）や地下配管類は埋設物のために耐震診断もできません。また、地下に設置してある配水池から配水するためポンプが必要です。低地で軟弱地盤に50年以上経過した施設は老朽化が進んでいます。</p> <p>危険性のある設備を整備して使用するよりも、計画的に整備を進めたほうが安全で経済的です。中根に地上の配水池を整備すれば停電時にも自然配水が可能で、また北千葉広域水道企業団からの送水管を新設し2系統受水にもなります。</p> <p>上花輪浄水場は給水区域の端にあり低地で経済性の悪い、脆弱な設備を存続する必要はありません、計画的に廃止すべきです。</p> <p>上花輪浄水場を計画的に廃止する、新水道ビジョンに合致した計画をお願いします。</p>	<p>したがって、現有施設における浄水処理能力に余力はなく、野田市の所有する水利権水量0.137 m³/秒（11,800 m³/日）を浄水処理するためには、新たに浄水処理施設の増設が必要となり、高額な負担が発生することから現実的ではありません。</p> <p>また、浄水処理量に余力が生じた時のみ浄水処理委託する方法は、施設維持管理等の費用負担の関係もあり構成団体の同意を得るのが困難であること及び北千葉広域水道企業団の認可上の問題もあり実現は困難でございます。</p> <p>2、3、4、6について</p> <p>上花輪浄水場につきましては、表流水の取水及び浄水に伴う施設の休止又は廃止の時期に合わせ、配水及び送水機能も休止又は廃止する計画といたします。</p> <p>また、上花輪浄水場の休止又は廃止に伴い、水運用効率化の向上を含めた配水池容量及び送配水設備など施設規模の検討や、中根配水場を含めた新たな施設の設置場所を検討し整備することといたします。</p> <p>5について</p> <p>北千葉広域水道企業団からの送水管が1系統しかなく漏水等による断水リスクが回避できるよう、新たに送水管を布設し、2系統による送水となるように改善要請をしております。</p> <p>北千葉広域水道企業団では改</p>	<p>修正有り</p> <p>修正無し</p>

No.	意見の概要	市の考え方	案の修正
1	水道の整備計画 野田市が取得している江戸川の取水権 0.137 m ³ /秒を北千葉広域水道企業団に貸与する。	善要請も踏まえ、第15次経営戦略である令和5年度から11年度までの計画期間の第1期事業として、北千葉浄水場から花井中継ポンプ場までの間について、新たに1系統を追加し、既存送水管と合わせて2系統による送水管とする計画が、11月12日開催の北千葉広域水道企業団運営協議会において決定されております。	修正無し
2	中根配水場に 10,000 m ³ の配水池を新設する。		
3	中根配水設備を増設する。		
4	上花輪浄水場から中根配水場への送水管は、中根配水場からの配水管に転用し上花輪浄水場系の配水管に接続し中根から配水する。		
5	北千葉広域水道企業団からの送水管を新設する。(北千葉広域水道企業団からの受水を2系統にする。) 現在企業団構成の他市は2系統になっている。		
6	上花輪浄水場及び配水設備を廃止する。(老朽化)		
7	上花輪浄水場跡地活用検討する。		
第6章 基本目標実現のための主要施策			
6.3 災害に強く不測の事態にしなやかに対応できる【強靱】な水道			
8	災害対策について 野田市市民生活部防災安全課では、災害時協力井戸などの登録制度を運用するとともに、災害時にもそれらが有効に給水可能となるように手動ポンプや発電機の購入助成制度も設けている。これは野田市域が自家用井戸の保有率が周辺に比べても高いことから非常に合理的な施策であ	「水道ビジョン野田」に掲げてあります災害対策は、水供給事業者として果たすべき対応を主軸として、渴水も含めた災害時の水確保策や断水対応、復旧体制の強化策等を示しております。 水道部と市民生活部の連携につきましては、野田市地域防災計画において、地震、風水害などの大規模災害時に各部局が活動す	修正無し

No.	意見の概要	市の考え方	案の修正
	<p>ると感心しているところです。</p> <p>しかし、「水道ビジョン」で同課のこの施策については全く触れられておらず、まさに縦割り行政の典型であるように感じました。</p> <p>水道部と市民生活部が部局を超えてしっかり連携して、災害時の応急給水について対策を策定すべきものと考えます。</p> <p>そうすることによって例えば、現在の手動ポンプの購入助成制度も、家庭用手動ポンプの購入に対応する程度のものから本格的な災害時用手動ポンプの設置も検討しうる様に補助額のグレードアップをすることも可能になり（助成率のアップも含めて）、現在の災害時協力井戸をより信頼性の高い応急給水手段にすることができるのではないのでしょうか？</p>	<p>る内容が示されており、その中で災害時の応急給水対策について、水道部と関係部局が相互に連携して対応に当たることが明確に示されています。</p> <p>また、災害時協力井戸の登録制度における、手動ポンプや発電機の購入助成制度に伴う補助につきましては、災害時協力井戸の登録制度を所管する部局において検討すべきものであり、災害時の連携強化とは異なります。</p>	
9	<p>テロ対策</p> <p>テロ対策については述べられていないようです。</p> <p>水道施設への毒物混入テロなどの発生を想定して対策を策定する必要もあるように思います。</p>	<p>市の水道施設は5施設ありますが、敷地内への不審者の侵入については防犯セキュリティー対策などを構築し万全を期しております。</p> <p>特に上花輪浄水場につきましては、運転管理業務の委託業者により24時間、365日、当該施設に常駐し水質管理を含め施設全体を監視しており、緊急時や水質の異常時には迅速な対応が可能となっております。</p>	修正無し